子どもも教員も多様性のあるコミュニティーに

東京都　世田谷区立桜丘（さくらがおか）中学校　前校長　**西郷孝彦**

学校は多様な子どもを受け入れる場になっているか

この春、新型コロナウイルスの感染拡大で学校が突然、休業になったことに対して、生徒の反応は様々でした。楽しみにしていた学校行事が中止となって落胆する生徒がいる一方、自由な時間ができて「好きな勉強ができる」とうれしそうな生徒や、「パソコンで先生の話を一方的に聞くだけの授業はつらい。学校が早く再開してほしい」という生徒もいました。そして、家庭に居づらさを感じている生徒は、臨時休業中もたびたび学校に来ていました。子どもの学校への思いや期待はそれぞれ異なります。学校にはそうした子どもたちが集うコミュニティーとしての役割があり、どんな子どもも受け入れる場所であらねばならないと改めて考えました。

しかし、現実には、学校は知識・技能を学ぶところ、人格形成を目指すところといったように、特定の役割を背負わされ、その目的を達成できずに「はみ出した」とされる子どもにとっては、居づらい場所になっているのではないかと感じます。学習や部活動はもちろんのこと、健康面や福祉面でのセーフティネットなど、様々な機能が共存するのが、日本の学校です。すべての機能が完璧ではなくても、バランスよく調和している方が、誰もが集えるコミュニティーとして、多様な子どもがかかわり合いながら成長できる場所となると思うのです。

授業の形は1つではなく、それぞれに正解がある

生徒と教員の間にも相性がありますから、生徒を受け止める教員の側にも多様性が必要です。私は、生徒が自分の話したい先生と話せる機会を定期的に設けていました。担任だから話しやすいわけではありませんし、保護者では存在が近すぎて話しづらいこともあるからです。

教員は常に正しくなければならないと思っている人もいますが、私は先生方に「生徒の前でもっと失敗しましょう」と伝えてきました。人は、自分の力のなさを認め、課題に気づき、理想を目指してもがいてこそ成長します。失敗するのは、試行錯誤しているからです。そうして個性を発揮しようとする様々な教員の姿を見れば、生徒は、自分がどうすべきか、将来どうしたいかを考えることができます。

授業も、教員の個性や得意分野を生かした、それぞれの「よい授業」があるはずです。授業研究に一生懸命取り組むのはよいことですが、他者の実践から表面的な授業方法を取り入れるだけでは、意味がありません。自分の個性を生かした授業のあり方を、探究することが大切なのです。

生物の進化の歴史を見ても、環境の変化によって絶滅する生物がいる一方、生き残っていく生物もいます。多様性があってこそ、環境が変わっても社会を維持することができる。そう考えれば、学校自体が多様であることは必然である、と捉えられるのではないでしょうか。

なぜ教員になったのか、改めて立ち返りたい

2020年３月末、私は再任用期間を終え、教職を退きました。在職中、私は校長室を開放し、生徒が自由に出入りできるようにしていました。誰かに話を聞いてほしい、教室に居づらいなど、様々な理由で生徒は校長室にやってきました。そして、一息ついた後、教室に戻っていきました。そうした場を退職後も設けられないかと考え、現在はオンライン会議ツールやSNSを活用して教え子と話をしています。言わば「バーチャル校長室」です。今は連絡を取り合う様々な手段があり、生徒の卒業や教員の異動があっても、つながり合うことができます。今後は１人の大人として、子どもたちの成長を支えていこうと考えています。

学校に通えないという状況は、教員も子どもも、そして社会も、学校の存在意義を改めて考える機会になりました。オンライン授業が浸透し始めてきたからこそ、子どもが学校に足を運んで学ぶべきことは何か、議論する時期にあると考えます。それと同様に、いま一度、自分は何のために教員になったのか、なぜこの学校や職場にいるのか、なぜ校長になったのかを思い返すよい機会でもあると思います。それを改めて考えれば、この思いがけない事態においても、目の前の子どもに自分ができることは何かが、おのずと見えてくると思います。

さいごう・たかひこ◎ 1954 年、神奈川県横浜市生まれ。横浜の様々な異国文化に触れながら育つ。上智大学理工学部卒業後、1979 年、理科と数学科の教員として入都。特別支援学校を経て、大田区、品川区、世田谷区で教諭 、副校長を歴任。2010 年度から 10 年間、世田谷区立桜丘中学校の校長を務め、2020 年 3 月末に退職。趣味はギター、スピーカー製作など。本誌 2019 年度 Vol.2 の本コーナーに登場。

臨時休業中の学びを振り返って ――西郷先生と教え子との誌上校長室――

西郷先生の２人の教え子が、桜丘中学校での生活や臨時休業中の日々を振り返って、自身の学びについて語り合いました。

中学２年生
S さん
桜丘中学校に越境して入学。演劇部で活動中のほか、友人とバンドを組んだ。

高校２年生
T さん
桜丘中学校卒業後、私立高校に進学。勉強に忙しい毎日を送っている。

学校以外の世界を持とう

――S さんは桜丘中学校２年生、T さんは私立高校２年生ですが、臨時休業中はどのように過ごしていましたか。

Sさん　学校に行けないのは残念でしたが、自由に使える時間を充実させようと思いました。マスクを作って保育園に寄付したり、好きな読書ではまだ読んでいなかった文学作品や古典に挑戦したりしました。勉強は、学校からの課題と、学校が教えてくれたウェブサイトを利用して、苦手な社会科と理科を中心に取り組みました。

Tさん　私が通う高校はいわゆる進学校で、臨時休業中もオンライン授業が１日７時間ありました。課題の量も膨大でこなしきれず、毎日深夜１時まで勉強していました。楽しみは、たまにするSNSでの友人とのやり取りくらいです。それも互いに返信が遅れがちで、息抜きできる時間がほとんどなくて大変でした。

西郷先生　T さんは頑張り屋さんだからね。桜丘中学校に在籍していた頃から勧めているけれど、自分の得意を生かして学校外の活動に挑戦してみたら？　ますます忙しくなるかもしれないけれど、学校とは異なる場所に自分の世界があれば、大変なことがあっても気分転換できるし、別の世界での経験は将来の幅を広げることにつながると思うよ。

Sさん　私は、演劇部の友人とバンド活動を始めましたが、きっかけは西郷先生のアドバイスでした。臨時休業中も家で練習していましたが、勉強とのめりはりがついたと思います。

臨時休業中の１日の過ごし方

	Sさんの1日	Tさんの1日
6:00		
7:00		片道２時間の通学がなくなってうれしい！
8:00	起床、朝食	起床、朝食
9:00	自習	オンラインの小テスト、ホームルーム
10:00	↓	オンライン授業（７時間）
11:00		↓
12:00	昼食	昼食
13:00	読書やギターの練習など	↓
14:00	趣味やボランティア	↓
15:00	↓	↓
16:00	臨時休業中に50冊読破！	↓
17:00	↓	オンラインの帰りの会など
18:00	夕食	学校の課題に取り組む
19:00	塾のオンライン授業	↓
20:00	↓	夕食
21:00		学校の課題に取り組む
22:00	入浴・就寝	↓
23:00		↓
0:00		↓
1:00		入浴・就寝

自分らしさを発揮するために大切なこと

――お二人は、西郷先生とよく話をしていたんですね。

Sさん　私は私立の小学校に通っていて、学区外から桜丘中学校への入学を希望しました。その相談をするために、西郷先生に会いに行きました。先生が初対面の私に気さくに応じてくださったおかげで、入学を希望する思いを伝えることができました。それほど話しやすい先生に出会ったのは初めてで、もっと話を聞いてもらいたくて、入学後も校長室をよく訪れていました。

Tさん　私もよく校長室に行き、西郷先生に不安や悩みを聞いていただきました。小学生の時は周囲に合わせることばかりに気を遣っていたのですが、西郷先生は「人は、一人ひとり違っていいんだよ」と何度も話してくださいました。実際に桜丘中学校の生徒が、それぞれ自分のやりたいことを実現しているのを見て、自分の気持ちを伝え、自分らしく過ごすことが大事だと思えるようになったんです。今の高校は、志望校合格に向けて先生方はとても熱心に指導してくださるのですが、「本校の生徒ならこれくらいできて当然」という意識も感じられて、悩みを相談しづらい雰囲気があります。生徒の気持ちに寄り添ってくれる先生がもっといてくれたら……と思います。

西郷先生　これからも、苦しいことや思い通りにならないつらいことがあるかもしれないけれど、後で振り返ってみると「大変だったけれども、何とか乗り越えられた！」と思える時が必ず来るから、頑張ってほしいな。

Sさん　私は、桜丘中学校に入って、初めて夢を持てました。ボランティア活動やビブリオバトルへの出場など、様々な経験をする中で、自分の英語が外国人に通じたことがとてもうれしくて、それをきっかけに外国に関心を持ちました。今は、海外に関連する企業で働きたいと思っています。

Tさん　私も桜丘中学校に入って意識が変わりました。それまではなんとなく大学に行くんだと思っていましたが、今は私らしさを大切にして将来を考え、その実現に近づく大学を目指したいと思っています。